

令和7年度 主要事業概要

＜安全で安心な地域社会の実現を目指し、将来を見据えた社会資本基盤整備の推進＞

（仮称）栗原インターチェンジ整備事業【継続中】



川口急傾斜地崩壊対策事業【継続中】



一級河川迫川（築館工区）河川改修事業【継続中】



（国）398号 湯浜雪寒対策事業【継続中】

令和7年4月

宮城県北部土木事務所栗原地域事務所

目 次

1 管内の概況	1
2 事務所の概要	1
3 令和7度の事業方針、事業箇所図	2
4 主要事業	
（1）高規格幹線道路と地域間連携を強化する道路整備の推進	
・（仮称）栗原インターチェンジ整備事業	5
・（主）築館登米線 萩沢道路改良事業	6
・（国）398号 湯浜雪寒対策事業	7
・（国）457号 一迫西沢道路改良事業	8
・（主）鹿島台高清水線 高清水南原道路改良事業	9
・（主）河南築館線 築館八沢道路改良事業	10
（2）河川等の整備と地域連携による防災力の強化	
・一級河川 迫川（築館工区）河川改修事業	11
・一級河川 荒川河川改修事業	12
・一級河川 照越川河川改修事業	13
・一級河川 小山田川河川改修事業	14
・川口 急傾斜地崩壊対策事業	15
・第1号虎沢堰堤改築事業	16
・岩倉沢砂防堰堤整備事業	17
・新地ヶ沢砂防堰堤整備事業	18
（3）道路、河川施設等の適正かつ効率的・持続的な維持管理の推進	
・橋梁長寿命化事業	19
・県単舗装補修事業	20
・河川内の支障木伐採・堆積土砂撤	21

令和7年度 北部土木事務所栗原地域事務所 事業概要

1 管内の概況

当事務所の所管区域は、平成 17 年 4 月 1 日に旧栗原郡 9 町 1 村の合併により誕生した栗原市全域であり、総面積は約 805km²（県全面積の約 11%）、人口は令和 7 年 2 月末現在で 60,270 人（県人口の約 3%）である。※R7.2月末 県全体 2,220,625 人

北西側は秋田・岩手両県と、南東側は大崎市・登米市と接し、栗駒山麓を水源とする迫川、二迫川、三迫川が東流する豊潤な大地を育んでいる。また、指定から 50 年以上となる栗駒国定公園や、ラムサール条約に登録され国内有数の渡り鳥の飛来地である伊豆沼・内沼など、豊かな自然環境や風光明媚な景観に恵まれている。

交通体系については、JR 東北新幹線や JR 東北本線、東北縦貫自動車道、国道 4 号が南北に縦断する基幹交通軸を形成し、また、東西交通軸として東北縦貫自動車道と三陸縦貫自動車道を結ぶ「みやぎ県北高速幹線道路」が整備され、令和 3 年 12 月に全線の供用を開始している。現在、富県宮城を支える広域道路交通ネットワークの充実強化の一環として、東北縦貫自動車道への相互乗り入れが可能となる（仮称）栗原インターチェンジ整備事業に取り組んでいる。

栗原地域では、人口が減少傾向にあり、高齢者人口調査結果（令和 6 年）によると高齢化率が 42.6%と圏域別で県内 1 位、市町村別では県内 3 位であり高齢化が顕著である。このため、地域経済を牽引してきた農業は、高齢化や担い手確保等が課題となっている。このような中、自動車関連産業をはじめとして企業等の誘致を積極的に推進し、地域産業及び経済活性化を図っているほか、平成 20 年 6 月の「岩手・宮城内陸地震」により甚大な被害を受けた栗駒山麓を中心とする市全域が、平成 27 年に「栗駒山麓ジオパーク」として認定を受け、「栗駒山麓ジオパークビジターセンター」を開所して情報の発信や体験・学習の場を提供するなど、これまでの活動がさらに評価されことから、令和 5 年 1 月 14 日の日本ジオパーク委員会において再認定され、山麓の地形や景観を教育、防災、観光などに活用する持続可能な地域づくりに積極的に取り組んでいる。

2 事務所の概要

当管内は、北西部に栗駒山を中心とする奥羽山脈が連なる一方、東部は平地が広がり、築館や栗駒、若柳地区などの市街地が形成され、農地では稲作などの農作物が栽培されている。

道路については、国道 398 号や 457 号などの主要路線が隣接県や沿岸部をはじめ他圏域と連絡しており、防災道路ネットワークの形成や圏域間の連携・交流促進などに向けた道路整備や防災機能強化に取り組んでいる。また、山間部は県内有数の豪雪地帯であり冬期間閉鎖が必要となる区間がある。特に、国道 398 号は春先の雪崩による危険箇所があり閉鎖解除の障害になっているが、観光振興や交流促進などの重要な役割を担う路線であることから、雪崩対策等を計画的に推進している。

河川については、栗駒山麓を源とする迫川、二迫川、三迫川が管内を貫流し、上流域は栗駒山の南東斜面で雨の降りやすい地形に加え、中・下流域は低平地で勾配が緩く、洪水時は北上川の背水の影響による越水や破堤などのほか、無堤及び河道狭小、堆積土砂・支障木等を有する区間が多く度々洪水被害に遭っている。令和 4 年 7 月豪雨では栗原市築館の日降水量が観測史上最大を記録し、管内で 71 箇所の被害を受けたことから、堤防補強や堆積土砂撤去及び支障木伐採等を計画的に推進させ、治水安全度の向上に取り組んでいる。

また、山地部では、昨今の気候変動による土砂災害の発生が危惧されることから、急傾斜地崩壊対策や砂防堰堤整備の推進や、航空レーザー測量を活用した土砂災害警戒区域等の基礎調査に取り組むなど、更なる防災・減災に向けたソフト対策の充実強化に取り組んでいる。

3 令和7年度の事業方針

栗原の多様な地域特性を活かした産業や観光の振興と交流人口の拡大のほか、安全で安心な地域社会の実現を目指し、将来を見据えた社会基盤整備を着実に推進する。

- (1) 高規格幹線道路や地域間連携を強化する道路整備の推進
- (2) 河川等の整備と地域連携による防災力の強化
- (3) 道路、河川施設等の適正かつ効率的・持続的な維持管理の推進

(1) 高規格幹線道路や地域間連携を強化する道路整備の推進

- ①東北・宮城の骨格となる高速道路網の整備
 - (仮称)栗原インターチェンジ整備事業 《道路建設班》
- ②地域の発展を支え、地域間連携を強化する広域道路網の整備
 - (主)築館登米線 築館萩沢道路改築事業 《道路建設班》
 - (主)鹿島台高清水線 高清水南原道路改良事業(調査・設計) 《道路建設班》
- ③災害に強い道路網の構築
 - (国)398号 湯浜雪寒対策事業(雪崩対策) 《道路管理班》
 - (国)457号 一迫西沢道路改築事業【国土強靱化】 《道路建設班》

(2) 河川等の施設整備と地域連携による防災力の強化

- ①総合的な治水対策の推進
 - 迫川(築館工区)河川改修事業(築堤等) 《河川砂防班》
 - 荒川、照越川、小山田川河川改修事業(築堤等)【国土強靱化】 《河川砂防班》
 - 洪水対応演習や情報伝達訓練など関係機関等と連携した防災訓練の実施 《事 務 所》
- ②総合的な土砂災害防止対策の推進
 - 川口急傾斜地崩壊対策事業 《河川砂防班》
 - 虎沢砂防堰堤改築事業 【国土強靱化】 《河川砂防班》
 - 岩倉沢、新地ヶ沢砂防堰堤整備事業 【国土強靱化】 《河川砂防班》
 - 新たな土砂災害警戒区域等基礎調査の実施 《河川砂防班》
 - 土砂災害防止パトロールによる土砂災害危険箇所の調査 《河川砂防班》

(3) 道路、河川施設等の適正かつ効率的・持続的な維持管理の推進

- 橋梁長寿命化事業 (主)古川一迫線 天神橋ほか2橋 《道路管理班》
- 舗装補修事業 (主)築館登米線 築館照越ほか6箇所 《道路管理班》
- 河川の支障木伐採・堆積土砂撤去【国土強靱化】 《河川砂防班》
- 道路や河川・砂防等パトロールによる異常箇所の早期発見・補修 《道管・河砂班》
- 愛護団体やスマイルサポーター等との連携・協働 《行 政 班》

令和7年度北部土木事務所栗原地域事務所 主要事業箇所図

※R6線越箇所含む

R6, 7債務補助(国)398号
湯浜 雪寒対策事業

R6線補助(国)398号
温湯橋 橋梁補修事業

R7 県単(一)文字上尾松線
栗駒文字 舗装補修事業

R7 補助(国)398号
小鉄沢橋 橋梁長寿命化事業

R7線補助 虎沢
砂防緊急改築事業

R7 補助(国)457号
一迫西沢 道路改築事業

R6線補助 堆積土砂
鳥沢川工区

R7 補助(主)古川一迫線
天神橋 橋梁長寿命化事業

R6線補助 一級河川小山田川
河川改修事業

R7 補助 岩倉沢
砂防堰堤整備事業

R7 県単(一)大鳥沢辺線
栗駒八幡 舗装補修事業

R7 補助 新地ヶ沢
砂防堰堤整備事業

R7 県単(一)大門有壁線
金成上原前 舗装補修事業

R6線補助 支障木
三迫川工区

R7 補助(一)若柳築館線
道場橋 橋梁長寿命化事業

R7 県単(一)油島栗駒線
若柳有賀 舗装補修事業

R6線補助 堆積土砂
夏川工区

R6線補助 支障木
迫川工区

R7補助 一級河川
迫川(築館工区) 河川改修事業

R7 補助(仮称)栗原IC整備事業

R7 県単(主)築館登米線
築館照越 舗装補修事業

R7 県単(主)河南築館線
築館八沢 道路改良事業

R7県単(主)河南築館線
築館太田 舗装補修事業

R6線補助 堆積土砂
小山田川工区

R7 補助 一級河川荒川
河川改修事業

R7 県単(主)築館登米線
萩沢 道路改築事業

R6線補助 一級河川照越川
河川改修事業

R7 県単(主)鹿島台高清水線
高清水南原 道路改良事業

- 凡例
- 赤: 道路改築事業
 - 茶: 交通安全施設整備(歩道設置)事業
 - 橙: 災害防除・雪寒(雪崩対策)・更新防災事業
 - 黒: 橋梁長寿命化事業
 - 紫: 舗装補修事業
 - 青: 河川改修事業
 - 緑: 急傾斜地崩壊対策事業・砂防緊急改築・堰堤事業
 - 紺: 堆積土砂撤去・支障木伐採(国土強靱化事業)

この地図は、測量法第29条に基づき国土地理院長の承認
『平成27年度東横、第25号』を得て、同院発行の5万分の1
地形図を複製したものを一部転載したものである。

4 主 要 事 業

記載の事業箇所及び予算等については、事業の進捗状況、関係機関等との協議・調整等により変更する場合があります。

(仮称) 栗原インターチェンジ整備事業

事業名	地域連携道路事業	
事業概要	「みやぎ県北高速幹線道路」は、三陸縦貫自動車道と東北縦貫自動車道を結び、災害時の救援・物資輸送路や圏域間の連携・交流促進など、広域道路ネットワークの形成を担う地域高規格道路である。 栗原市築館萩沢地内において、東北縦貫自動車道と（主）築館登米線（みやぎ県北高速幹線道路）を直結する（仮称）栗原インターチェンジを整備することで、沿線の工業団地や三陸縦貫自動車道との物流の効率化，速達性，定時性，確実性，利便性の向上が期待されるとともに、広域医療ネットワークの形成や地域間防災の連携強化を図るもの。	
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市築館萩沢地内 2 全体事業費 C=9,800 百万円 3 施工延長 L=0.78km（本線延長） 4 事業期間 平成 30 年度～令和 11 年度（予定） 5 進捗率 R6 末 38.5% 6 事業概要 トランペット型 I C 橋梁 2 橋	【令和 7 年度事業概要】 1 事業費 C=1,783 百万円 （うち繰越 983 百万円） 2 施工延長 — 3 事業概要 NEXCO 東日本 道路改良 ランプ橋新設、後沢橋架替 宮城県 市道付替工事 一式
事業効果	地域産業の支援、観光の活性化、広域医療ネットワークの強化、地域間防災の連携強化	



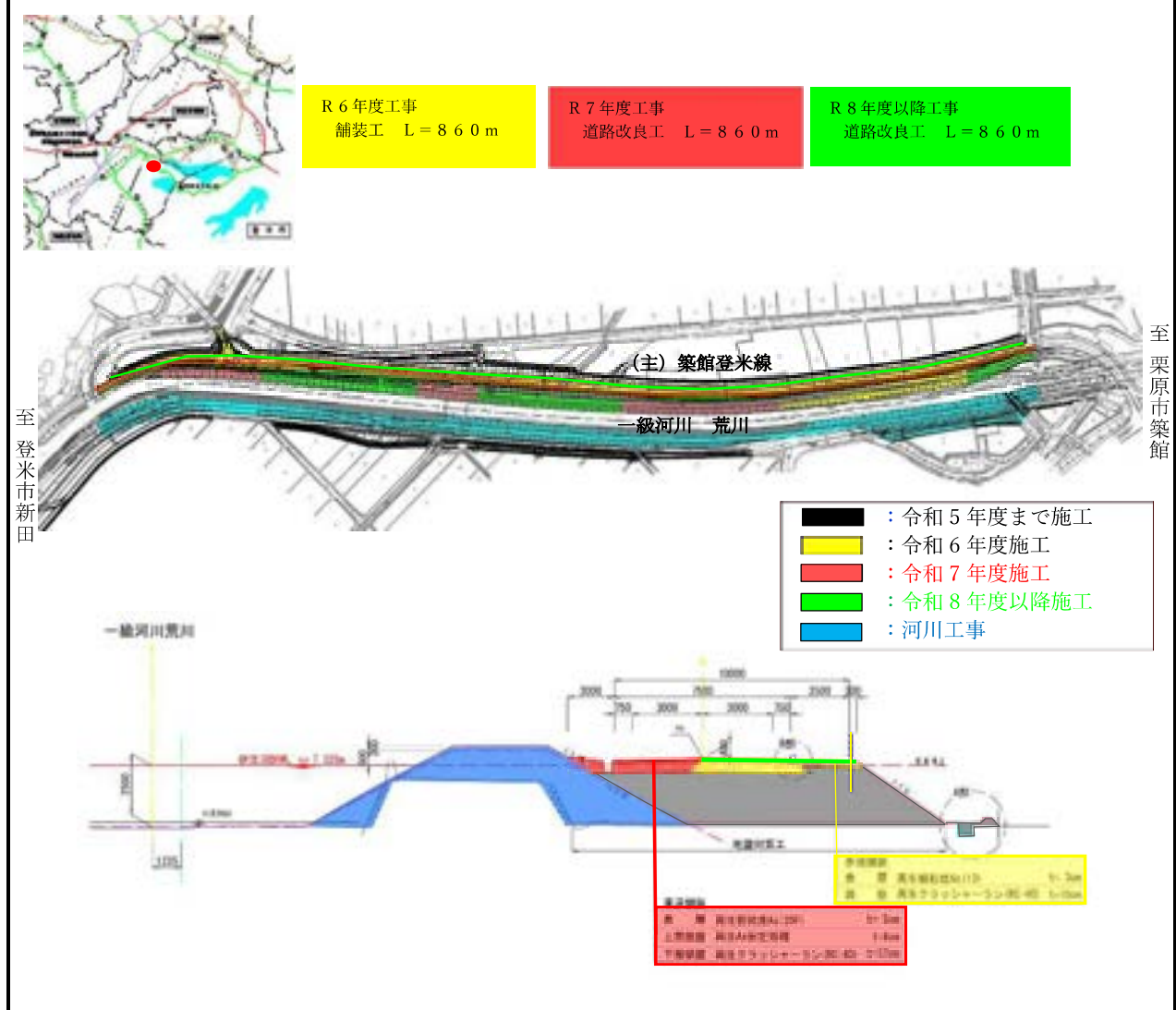
完成イメージ

令和 6 年 1 1 月



(主) 築館登米線 萩沢道路改良事業

事業名	防災・安全交付金事業（河川事業）、県単道路改良事業、県単河川局部改良事業	
事業概要	主要地方道築館登米線は、栗原市築館と登米市登米町を結ぶ約 35 k m の幹線道路であり、栗原・登米地域の物流や産業振興、地域間交流などに重要な路線である。 事業箇所は、一級河川荒川との兼用堤区間であり、河川改修済みであるが、長年の交通荷重や地震などの影響により堤防が沈下し、洪水時に周辺一帯が長時間冠水し通行止めが発生している。 このため、堤防嵩上げ等と併せ道路の拡幅及び嵩上げ等を行うなど、河川と道路整備を一体で行うことで、冠水による通行止めの解消と、安全で快適な通行を確保するもの。	
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市築館字萩沢地内 2 全体事業費 C=1,488 百万円 3 施工延長 L=850m W=6.5(8.5)m 4 事業期間 平成 27 年度～令和 9 年度（予定） 5 進捗率 R6 末 52.6% 6 事業概要 道路改良 L = 860m	【令和 7 年度事業概要】 1 事業費 C=463 百万円 2 施工延長 L=860m 3 事業概要 道路改良工 L=860m
事業効果	冠水による通行止めが解消され歩道も整備されることから、登米及び栗原圏域を結ぶ東西交通軸として産業や観光振興等の促進が期待される。	



国道398号 湯浜雪寒対策事業

事業名	防災安全交付金事業（雪寒）	
事業概要	（国）398号は、石巻市を起点に女川町、南三陸町、登米市、栗原市を経由し、秋田県由利本荘市に至る幹線道路である。栗原市花山本沢湯浜地区は、県北西部の栗駒国定公園内に位置し、雄大で風光明媚な自然景観に恵まれ、年間約25万人（平成30年）もの観光客が訪れる。 一方、当箇所は県内有数の豪雪地帯であり、秋田県境の14.4km区間は毎年冬期閉鎖しており、観光振興及び地域間交流の促進のため春先の早期開通が望まれている。 春先の冬期閉鎖解除後の安全な通行を確保するため、雪崩の危険性や雪庇の落下等を踏まえ優先順を定めスノーシェットの延伸等を進めるもの。	
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市花山本沢岳山地内 2 全体事業費 C=4,100 百万円 3 施工延長 L=831m 4 事業期間 平成12年度～令和14年度 5 進捗率 R6末 65.5%(544m/831m) (上部工完成延長) 6 事業概要 スノーシェット N=4 基	【令和7年度事業概要】 1 事業費 C=115 百万円 (うち繰越 15 百万円) 2 施工延長 L=24m 3 事業概要 1号スノーシェット延伸 1号起点側：R6・7 債務 谷側下部工(B4・B5) L=24m 1号起点側：R7・8 債務 上部工(B5・B6) L=22m
事業効果	雪寒対策により、安全で円滑な通行の確保と冬期閉鎖解除の早期化による観光振興及び地域間交流の促進等が図られる。	



1号スノーシェット現況写真



1号スノーシェット延伸区間現況写真



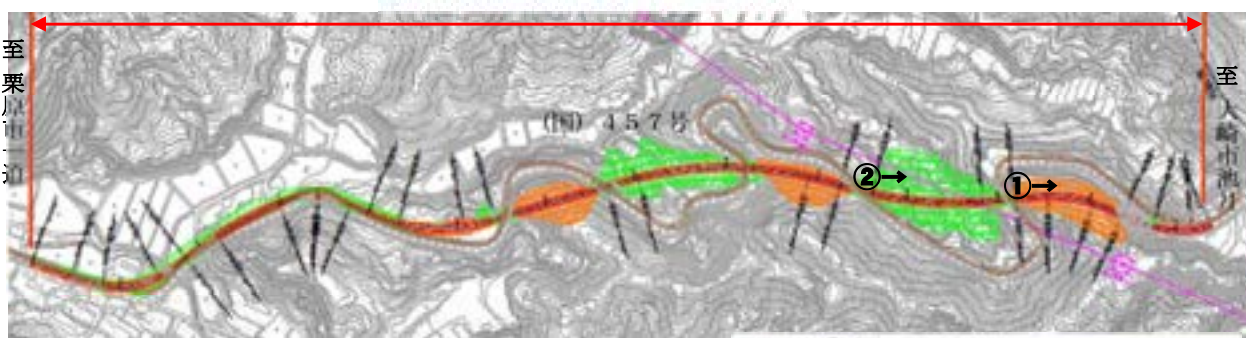
(国) 4 5 7 号 一迫西沢道路改良事業

事業名	防災・安全交付金（道路事業）	
事業概要	" 一般国道457号は、一関市を起点とし栗原市、大崎市、加美町、大和町、仙台市などを経て白石市へ至る延長約117kmの国道で、栗原市内は全て緊急輸送道路（2次）に指定されている。 事業箇所は、大崎市との市境付近に位置し、幅員狭隘かつ急カーブが連続する区間で大型車両の通行に支障が生じているほか、落石や崩落の恐れのある脆弱な道路法面が複数確認されており現道交通への影響が懸念されている。 このため、走行性が著しく劣る急カーブの解消及び防災安全上支障となる脆弱な法面を回避するための拡幅・線形改良を実施し安全かつ快適な通行機能を確保するもの。"	
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市一迫西沢地内 2 全体事業費 C=1,600 百万円 3 施工延長 L=1.4km W=5.5(8.0)m 4 事業期間 令和3年度～令和11年度 5 進捗率 R6末 35.5% 6 事業概要 道路改良 L=1.4km	【令和7年度事業概要】 1 事業費 C=161 百万円 (うち繰越 91 百万円) 2 施工延長 L=300m 3 事業概要 道路土工 V=43,900m³ 舗装工 A=2,400m² 用地買収及び補償 一式
事業効果	道路の拡幅・線形改良により安全で快適な通行が確保されることで、広域的な交通軸としての機能が強化されるとともに緊急輸送路としての安全性が向上する。	





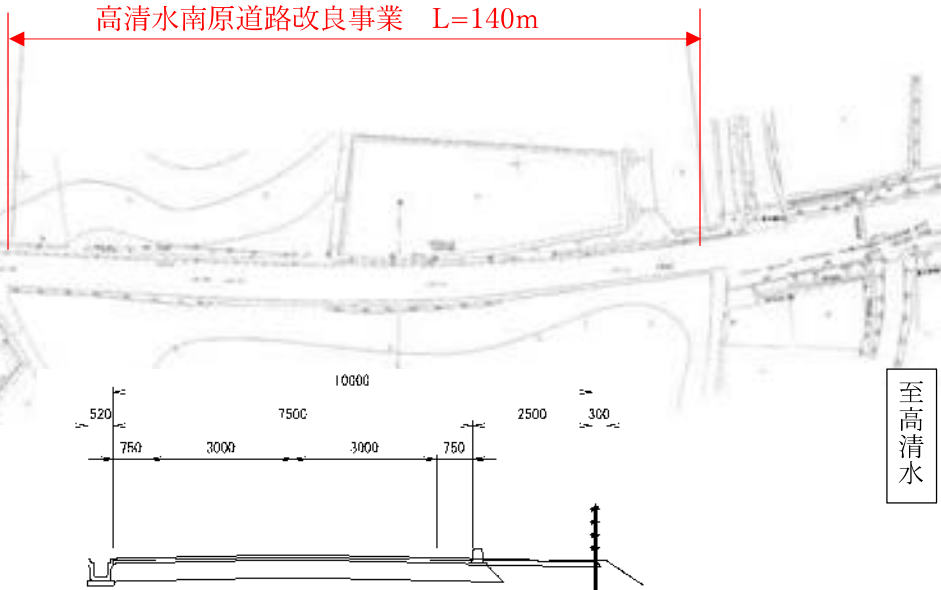
一迫西沢道路改良事業 施工延長 L=1,400m



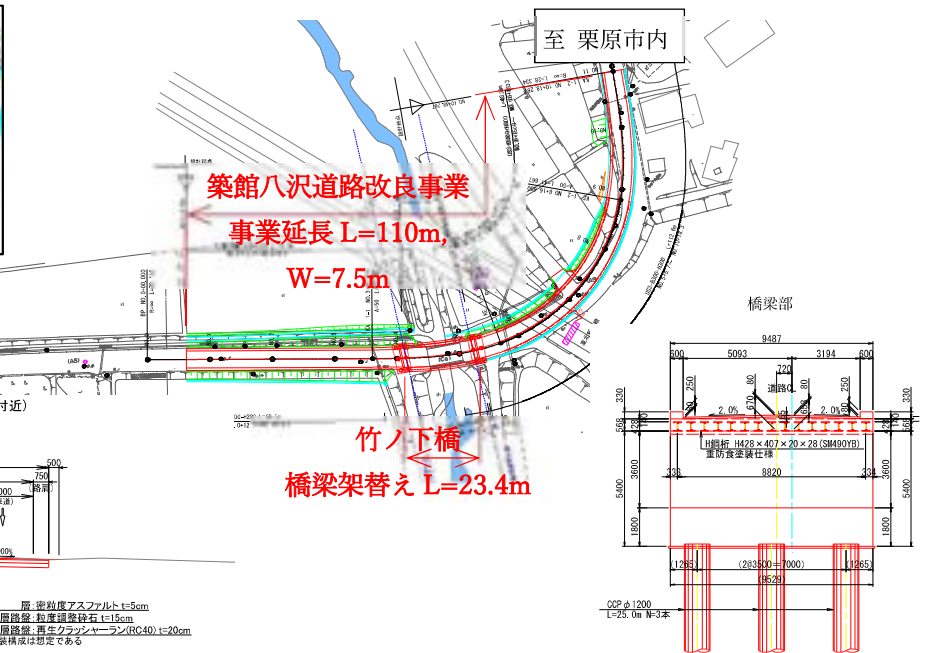




(主) 鹿島台高清水線 高清水南原道路改良事業

事業名	県単道路改良事業		
事業概要	主要地方道鹿島台高清水線は、大崎市鹿島台から栗原市高清水へ至る延長 23km の幹線道路であり、国道 4 号の迂回路的性格を持ち仙台圏への貨物輸送及び大崎、栗原市間の通勤・通学など多目的な利用者の多い路線である。 当区間は 2 車線片側歩道で整備が進んでいたが、大崎市との行政界付近で事業が中断されたことから 140m 区間が 1 車線に減少し歩道も途切れていることから、対向車とのすれ違いや自転車歩行者の通行に支障をきたし地元から改良の要望がある。 今回、車道拡幅と歩道整備を行い安全な通行の確保を図るものである。		
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市高清水南原地内 2 全体事業費 C=50 百万円 3 施工延長 L=140m 4 事業期間 令和 7 年度～令和 9 年度 5 進捗率 R6 末 0.0% 6 事業概要 道路改良 L=140m	【令和 7 年度事業概要】 1 事業費 C=20 百万円 (うち繰越 0 百万円) 2 施工延長 L=140m 3 事業概要 道路詳細設計 一式 用地測量 一式	
事業効果	危険箇所解消により地域の安全・安心が確保される。		
 高清水南原道路改良事業 L=140m  至鹿島台 至高清水 高清水方向を望む 鹿島台方向を望む  			

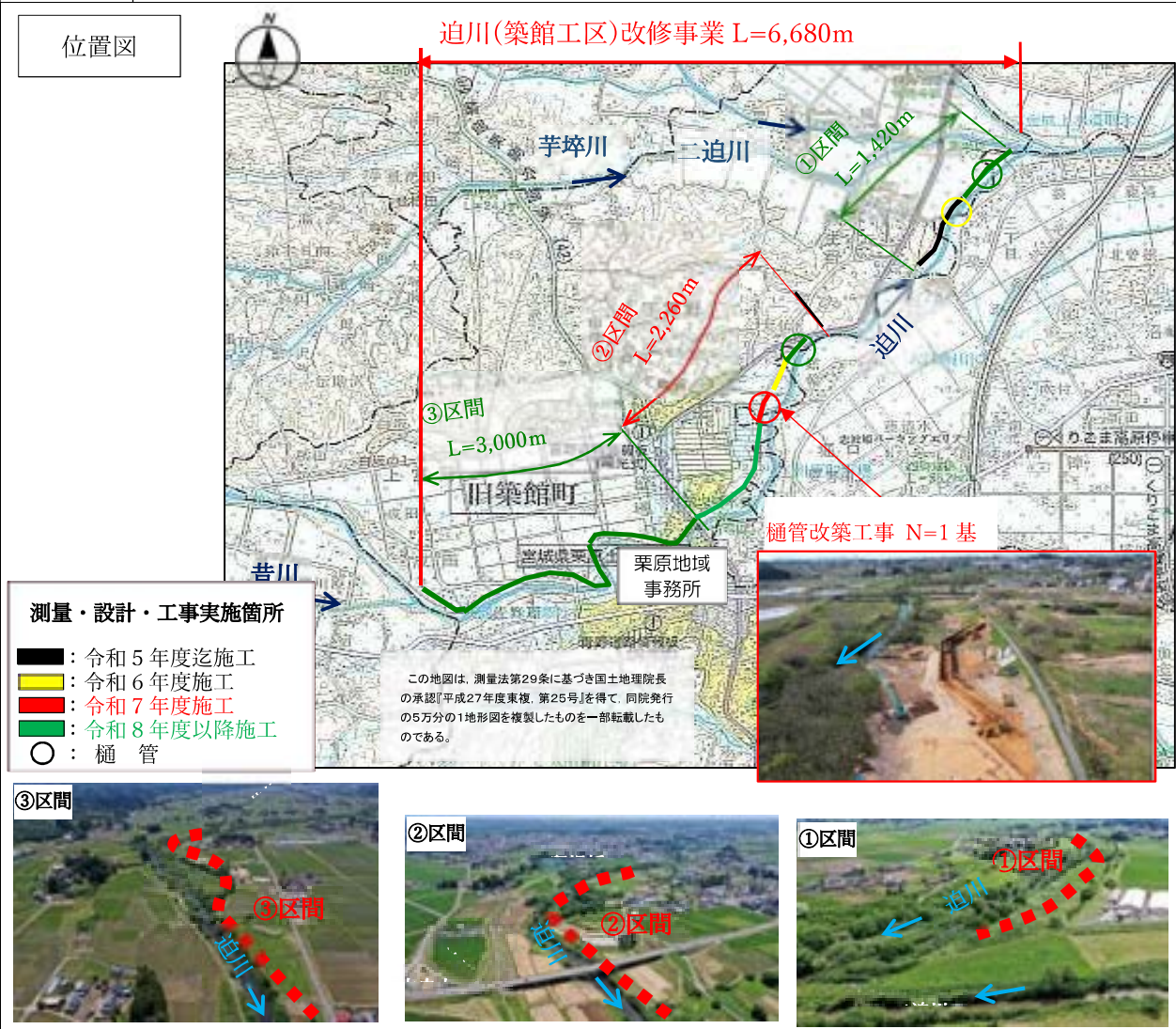
(主) 河南築館線 築館八沢道路改良事業

事業名	県単道路改良事業		
事業概要	主要地方道河南築館線は、石巻市前谷地を起点として、栗原市築館に至る総延長 32.3 k mの幹線道路であり、石巻圏から大崎圏を経由し栗原圏を結ぶ相互交流及び連携に不可欠な重要路線である。 本事業区間は、狭隘な竹ノ下橋部での対向車とのすれ違いや、自転車歩行者の安全な通行に支障があり、前後の急カーブを含めた道路改良について、地元から熱心な改良要望がある。 本事業内容は、狭隘な竹ノ下橋を拡幅し、前後の急カーブを緩和することで、通行車両の交通障害を解消する目的で事業を実施するものである。今回、橋梁架替えを含めた道路改良を行い安全な通行の確保を図るものである。		
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市築館八沢地内 2 全体事業費 C=500 百万円 3 施工延長 L=110m 4 事業期間 令和 6 年度～令和 1 3 年度 5 進捗率 R6 末 4.3% 6 事業概要 道路改良 L=110m 橋梁架替え 1 橋	【令和 7 年度事業概要】 1 事業費 C=50 百万円 (うち繰越 0 百万円) 2 施工延長 L=110m 3 事業概要 道路詳細設計 一式 橋梁詳細設計 1 橋 用地測量 一式	
事業効果	急カーブを含めた狭隘部の解消により、地域の安全・安心が確保される。		
 至 石巻市 一般部 (NO. 11付近) 車道用防護柵 緑石工 表 層: 密粒度アスファルト t=5cm 上層路盤: 粗度調整砕石 t=15cm 下層路盤: 再生クラッシャーラン(RC40) t=20cm ※舗装構造は想定である 起点側 (石巻方向) より  至 栗原市内 築館八沢道路改良事業 事業延長 L=110m, W=7.5m 竹ノ下橋 橋梁架替え L=23.4m 橋梁部 OPC φ1200 L=25.0m N=3本 終点側 (栗原市内) より			
			

一級河川迫川（築館工区）河川改修事業

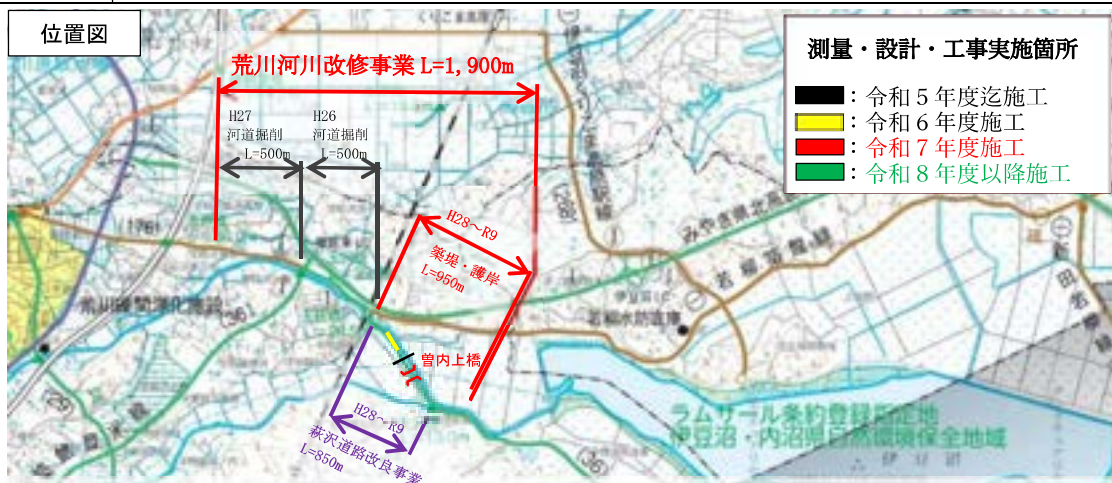
事業名	防災・安全交付金事業（河川事業）	
事業概要	迫川は、栗駒山麓を水源に栗原市及び登米市を貫流して旧北上川と合流する北上川水系の一級河川である。流域面積は約 913km²、流路延長は約 95km と県内屈指の規模を誇っている。 事業箇所の迫川（築館工区）では、二迫川合流点から昔川合流点までの約 6.7km の区間において左岸側の堤防嵩上げ工事等を実施している。 この築館工区の背後地には、栗原市立栗原中央病院や宮城県立築館高校などの重要施設があることから、河川水位の上昇によって生じる被害を軽減するため、堤防嵩上げ工事とこれに伴う樋管改築工事を実施し堤防の機能強化を図っている。	
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市築館 2 全体事業費 C=2,000 百万円 3 施工延長 L=6.7km 4 事業期間 令和元年度～ 5 事業概要 築堤（左岸）L=6,680m 等	【令和 7 年度事業概要】 1 事業費 C=298 百万円 (うち繰越 171 百万円) 2 施工延長 L=56m 3 事業概要 樋管改築工事 1 基 (令和 6 年度～令和 8 年度)
事業効果	河川の流下能力向上・堤防機能の強化により洪水被害が軽減され、地域の安全・安心が確保される。	

位置図



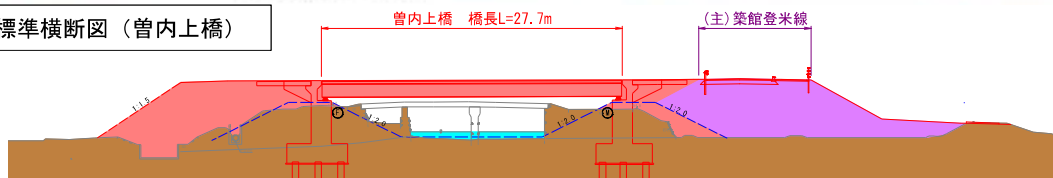
一級河川荒川 河川改修事業

事業名	県単河川局部改良事業、防災・安全交付金事業（河川事業）	
事業概要	荒川は、栗原市築館南部の丘陵地を水源として伊豆沼に注ぐ一級河川である。 事業箇所は、荒川と(主)築館登米線との兼用区間で昭和30～40年代に災害関連等で改修済だが、軟弱地盤であり交通荷重や地震などの影響により堤防が沈下し、荒川の増水時には道路や周辺田畑が長時間冠水するなどの被害が発生している。 このため荒川の堤防嵩上げを行い、増水による越水被害や道路冠水による車両への通行被害の軽減を図っている。 右岸側は河川改修事業と道路改良事業との一体で整備を行い、左岸側は河川改修事業として堤防嵩上げなどを実施し流下能力の向上を図っている。	
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市築館照越 2 全体事業費 C=2,182 百万円 3 施工延長 L=1.9km 4 事業期間 平成26年度～ 5 事業概要 築堤・護岸 L=950m 橋梁1橋、サイフォン改築 等	【令和7年度事業概要】 1 事業費 C=290 百万円 (うち繰越290 百万円) 2 施工延長 L=950m 3 事業概要 護岸工 L=300m 橋梁下部工 N=2基
事業効果	河川の流下能力向上・堤防機能の強化により洪水被害が軽減され、地域の安全・安心が確保される。	

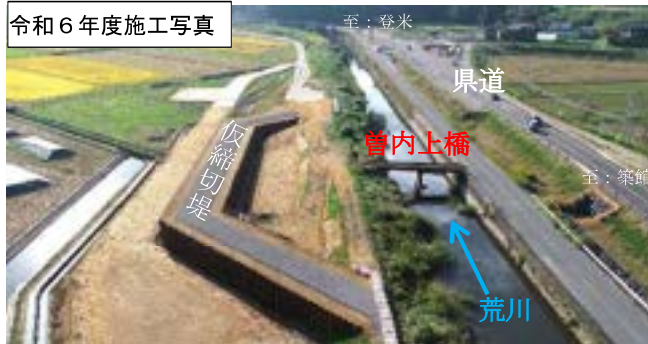


この地図は、測量法第29条に基づき国土院の地図データ（令和5年度版、第25号）を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものを一部転載したものである。

標準横断面（管内上橋）



令和6年度施工写真

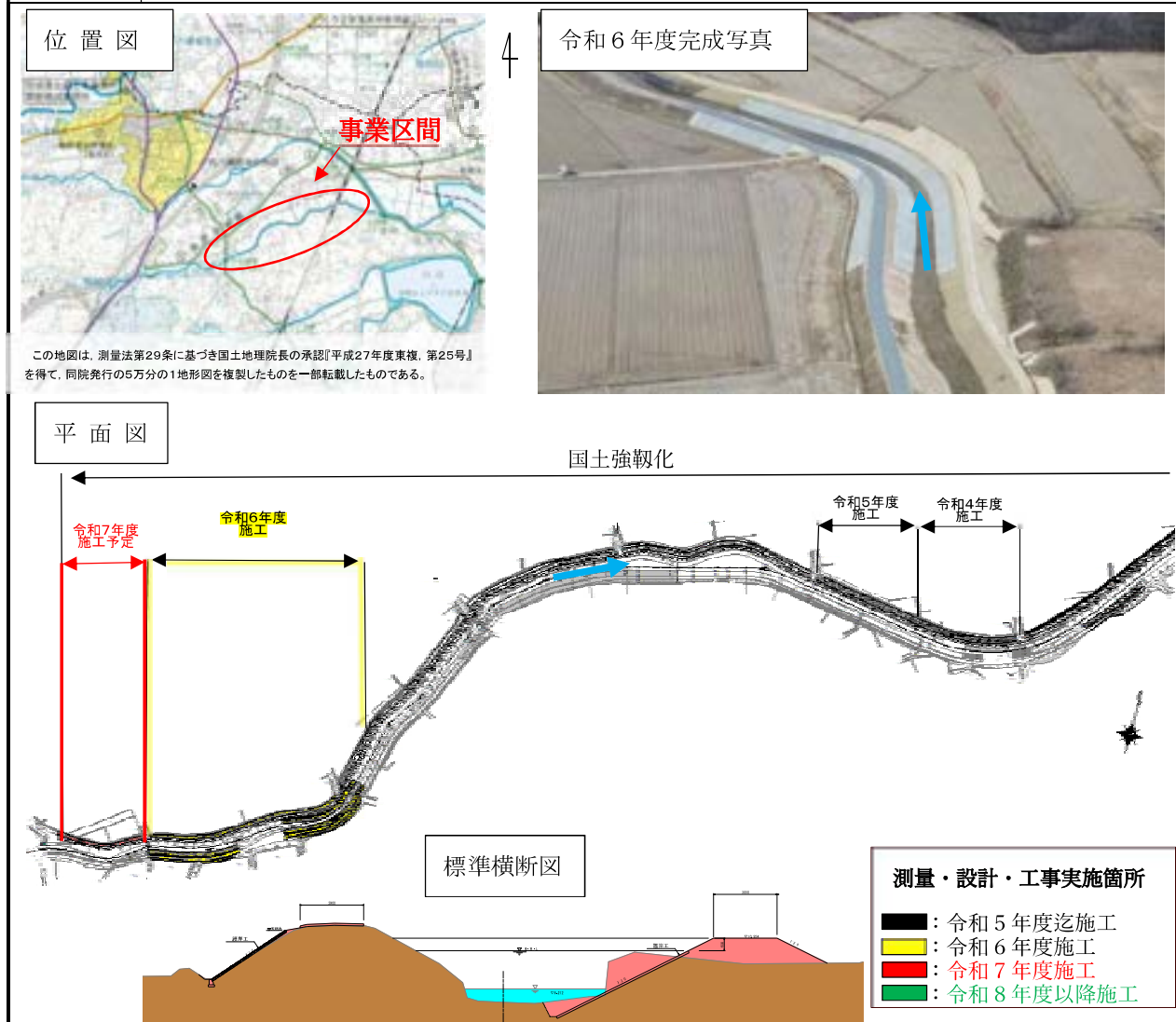


令和6年度完成写真



一級河川照越川 河川改修事業

事業名	防災・安全交付金事業（河川事業）	
事業概要	照越川は、栗原市築館南部の丘陵地を水源に水田地帯を貫流しながら荒川に合流する一級河川である。 洪水時には越水や破堤により、周辺の水田が長時間冠水するなど、農作物等も含め甚大な被害が発生している。 このことから、照越川における治水安全度向上を図るため狭隘部となっている区間の河道掘削や築堤嵩上げ等を行い流下能力の向上を図ると共に、堤防法面にコンクリート護岸を設置し堤防の機能強化を図っている。	
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市築館照越 2 全体事業費 C=425 百万円 3 施工延長 L=1,360m 4 事業期間 平成 26 年度～ 5 事業概要 護岸工 A=7,510 m²	【令和 7 年度事業概要】 1 事業費 C=21 百万円 (うち繰越 21 百万円) 2 施工延長 L=97.1m 3 事業概要 護岸工 A=367 m²
事業効果	河川の流下能力向上・堤防機能の強化により洪水被害が軽減され、地域の安全・安心が確保される。	



一級河川小山田川 河川改修事業

事業名	防災・安全交付金事業（河川事業）	
事業概要	小山田川は、大崎市岩出山の丘陵地を水源に栗原市南部の清水・瀬峰を東流し蕪栗沼に流入する一級河川である。 事業箇所は、昭和40年代に局部改良により整備済であるが、整備後40年以上経過し、堤防内には草木茎が根付くなど脆弱化や堤体の沈下等が顕著となっている。 このため、堤防の嵩上げと腹付け盛土などを行い堤防の機能向上を図るとともに、堤防天端を舗装し堤体への雨水浸透を抑制することで、さらなる堤防強化を図っている。	
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市清水～瀬峰 2 全体事業費 C=417 百万円 3 施工延長 L=4,400m 4 事業期間 平成26年度～ 5 事業概要 盛土 V=19,460m³ 舗装 A=11,740m²	【令和7年度事業概要】 1 事業費 C=40 百万円 (うち繰越 40 百万円) 2 施工延長 L=215.0m 3 事業概要 盛土 V=1,660m³ 舗装 A= 410m²
事業効果	堤防機能の強化により洪水被害が軽減され、地域の安全・安心が確保される。	

位置図



この地図は、測量法第29条に基づき国土地理院長の承認『平成27年度東横 第25号』を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものを一部転載したものである。

令和6年度完成写真

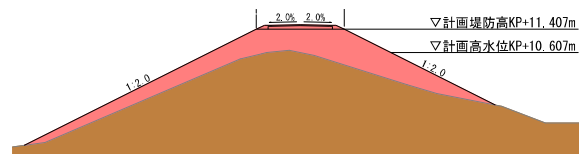


平面図

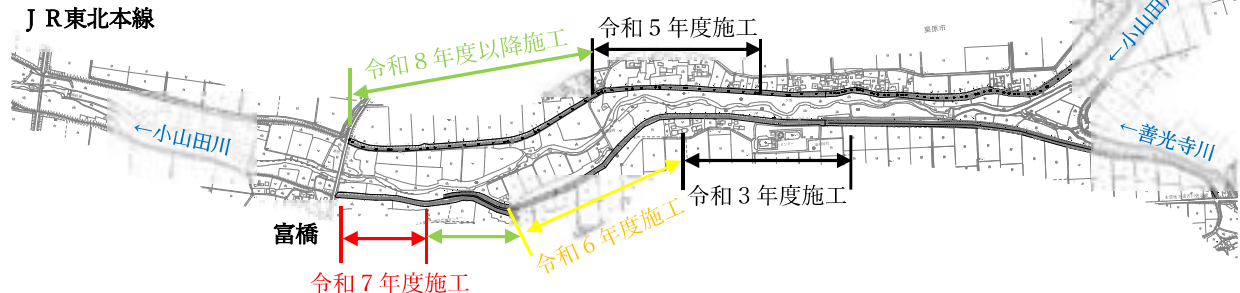
測量・設計・工事実施箇所

- : 令和5年度迄施工
- : 令和6年度施工
- : 令和7年度施工
- : 令和8年度以降施工

標準横断面図(左岸)



JR東北本線



川口急傾斜地崩壊対策事業

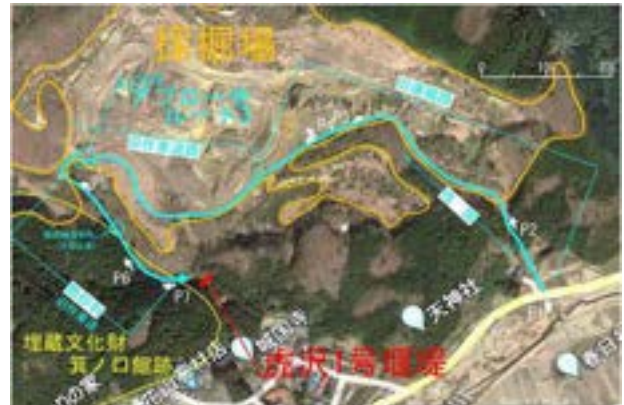
事業名	防災・安全交付金事業（急傾斜地崩壊対策事業）	
事業概要	栗原市一迫川口地区は、一般県道花山一迫線沿いに住宅等が密集している集落で、住宅等の背後は急峻な丘陵地が続いている地域である。 事業箇所は、岩手・宮城内陸地震や東日本大震災、さらに平成27年9月の関東・東北豪雨等により湧水や落石・亀裂等が発生している箇所が見られることから、斜面が崩壊した場合には、斜面下の集落や県道まで被害が及ぶ地域である。 このため危険性が高い斜面について急傾斜地崩壊対策を行い、地域住民の安全な暮らし及び県道の交通確保を図ることを目的に実施するもの。	
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市一迫川口地内 2 全体事業費 C=1,261 百万円 3 施工延長 L=701m 4 事業期間 平成 30 年度～ 5 進捗率 R6 末 44.0% 6 事業概要 重力式擁壁工、法枠工	【令和7年度事業概要】 1 事業費 C=158 百万円 (うち繰越 88 百万円) 2 施工延長 L=45.0m 3 事業概要 重力式擁壁工 L= 45m 法枠工 A= 347m²
事業効果	土砂災害を未然に防止し、安全で安心な暮らしを確保する。	



第1号虎沢堰堤改築事業

事業名	砂防メンテナンス事業	
事業概要	栗原市花山草木沢宿地内は高低差 100m 内外の丘陵地形で構成されており、この地内にある虎沢はいくつもの支流が合流して形成される溪流の小河川である。 事業箇所の第1号虎沢堰堤は、旧基準に基づき設計・施工され、昭和44年2月に完成し、50年以上経過している施設である。域内は昭和40年代から昭和50年代に行われた大規模な碎石掘削による地形が著しく改変されており、既設砂防堰堤による土石流の捕捉容量等の確認が必要となっていた。 令和4年度の調査・設計で、土石流捕捉量は満たしているものの既設砂防堰堤が新基準を満足していないため、砂防堰堤の改築工事を実施するもの。	
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市花山草木沢宿地内外 2 全体事業費 C=147 百万円 3 施工延長 L=40.8m 4 事業期間 令和3年度 ～令和7年度(予定) 5 進捗率 R6 末 15% 6 事業概要 コンクリート工、コンクリートブロック積工	【令和7年度事業概要】 1 事業費 C=93 百万円 (うち繰越 93 百万円) 2 施工基数 改築工 N=1 基 3 事業概要 コンクリート打設工 V=378m³ 流路工 L=27m
事業効果	既設堰堤の改築により、土砂の流出を防止し、地域の安全・安心な暮らしを確保する。	

位置図



既設堰堤写真



計画断面図



岩倉沢砂防堰堤整備事業

事業名	防災・安全交付金事業（通常砂防事業）		
事業概要	岩倉沢は、栗原市栗駒沼倉薬水地内に位置する溪流であり、平成13年に施行された土砂災害防止対策法に基づき、土石流の発生が予測される危険箇所の調査を進め、平成27年6月に土砂災害警戒区域等に指定（告示）されている。 周辺は多数の住宅が立地するほか、緊急輸送路としての役割を担う国道457号が併走していることから、地域の生活基盤や道路機能の確保に向けて、砂防施設等の整備を行い、土砂災害からの被害の軽減を図るもの。		
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市栗駒沼倉地内 2 全体事業費 調査設計中 3 施工延長 調査設計中 4 事業期間 令和5年度～ 5 事業概要 土石流対策工 不透過型堰堤 H=10m	【令和7年度事業概要】 1 事業費 C=11百万円 (うち繰越11百万円) 2 事業概要 用地測量 一式	
事業効果	砂防堰堤等整備により、土砂の流出を防止し、地域の安全・安心な暮らしを確保する。		
位置図	この地図は、測量法第29条に基づき国土地理院長の承認「平成27年度東横 第25号」を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものを一部転載したものである。		
平面図			
溪流状況			
縦断面図	余裕高勾配 $i=1/9.3$ 計画高水位 $i=1/9.3$ 計画埋砂高 $i=1/9.3$ 平常時埋砂高 $i=1/12.4$ 計画埋砂高 $H=10.0m$ 計画埋砂高 $H=10.0m$ 計画埋砂高 $H=10.0m$ 計画埋砂高 $H=10.0m$ 計画埋砂高 $H=10.0m$ 計画埋砂高 $H=10.0m$ 計画埋砂高 $H=10.0m$ 計画埋砂高 $H=10.0m$ 計画埋砂高 $H=10.0m$		
正面図	72000		
完成イメージ			

新地ヶ沢砂防堰堤整備事業【国土強靱化】

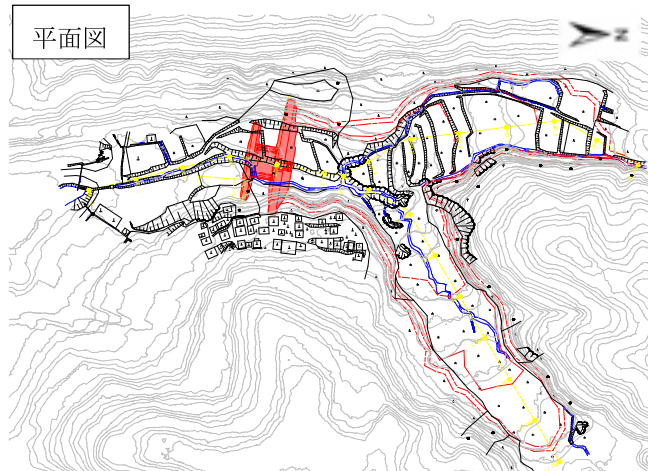
事業名	防災・安全交付金事業（通常砂防事業）	
事業概要	新地ヶ沢土石流対策事業については、栗原市栗駒岩ヶ崎新地ヶ沢地内に位置する溪流であり、平成13年に施行された土砂災害防止法に基づき、土石流の発生が予測される危険箇所の調査を進め、平成27年6月に土砂災害警戒区域等に指定（告示）されている。 周辺は多数の住宅や指定避難所のほか要配慮者施設などが立地していることから、地域の生活基盤の確保に向けて、砂防施設等の整備を行い、土砂災害からの被害軽減を図るもの。	
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市栗駒岩ヶ崎地内 2 全体事業費 調査設計中 3 施工延長 調査設計中 4 事業期間 令和5年度～ 5 事業概要 土石流対策工 不透過型堰堤 H=7m	【令和7年度事業概要】 1 事業費 C=11百万円 (うち繰越10百万円) 2 事業概要 用地測量 一式
事業効果	砂防堰堤等整備により、土砂の流出を防止し、地域の安全・安心な暮らしを確保する。	

位置図



この地図は、測量法第29条に基づき国土地理院長の承認『平成27年度東横、第25号』を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものを一部転載したものである。

平面図



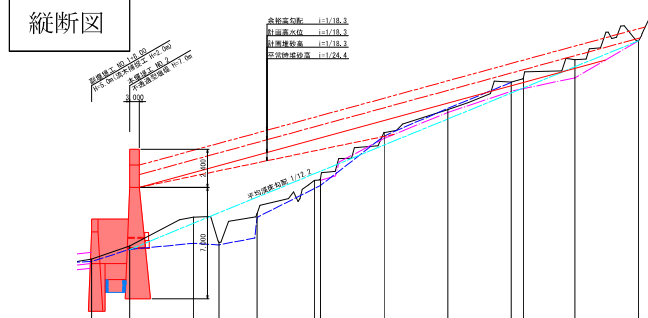
溪流状況



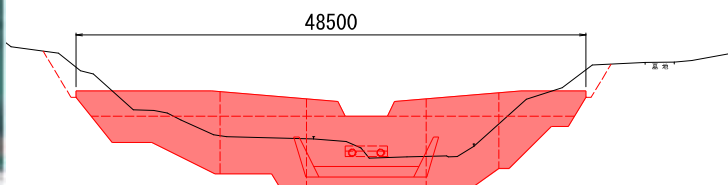
完成イメージ



縦断面図



正面図



橋梁長寿命化事業

事業名	道路メンテナンス事業	
事業概要	県の管理する道路橋は、今後急速に高齢化が進んでいき、少子高齢化による労働人口減少に伴う税収の減少や社会福祉費の増加に伴う建設関係の投資余力の減少が懸念され、将来的に少ない予算の中で管理橋梁の維持更新が必要となることから、計画的に点検・補修していくことにより、維持管理コストを低減していくことが重要となっている。 急速な高齢化に対処するために、計画的な維持補修及び将来的な更新時期の平準化を図ることが求められており、その実現に向けて、橋梁長寿命化計画に基づき橋梁補修工事を進めるもの。	
事業内容	【全体計画（第3次橋梁長寿命化計画）】 1 事業箇所 管内県管理橋梁 2 全体事業費 3 対象橋梁 43 橋 4 事業期間 平成 31 年度～令和 10 年度 5 進捗率 R6 末 90.7% (43 橋のうち 39 橋完了) 6 事業概要 橋梁補修 N=43 橋	【令和 7 年度事業概要】 1 事業費 C=147 百万円 (うち繰越 25 百万円) 2 施工橋梁 9 橋 3 事業概要 補修工事 N=3 橋 (小鉄沢橋、天神橋、道場橋) 調査設計 N=6 橋 (第 4 次橋梁長寿命化計画)
事業効果	健全な状態をより長く保つことが可能となり橋梁の長寿命化を図ることができ、更新時期の平準化や橋梁維持補修費の大幅な縮減が期待される。	

位置図



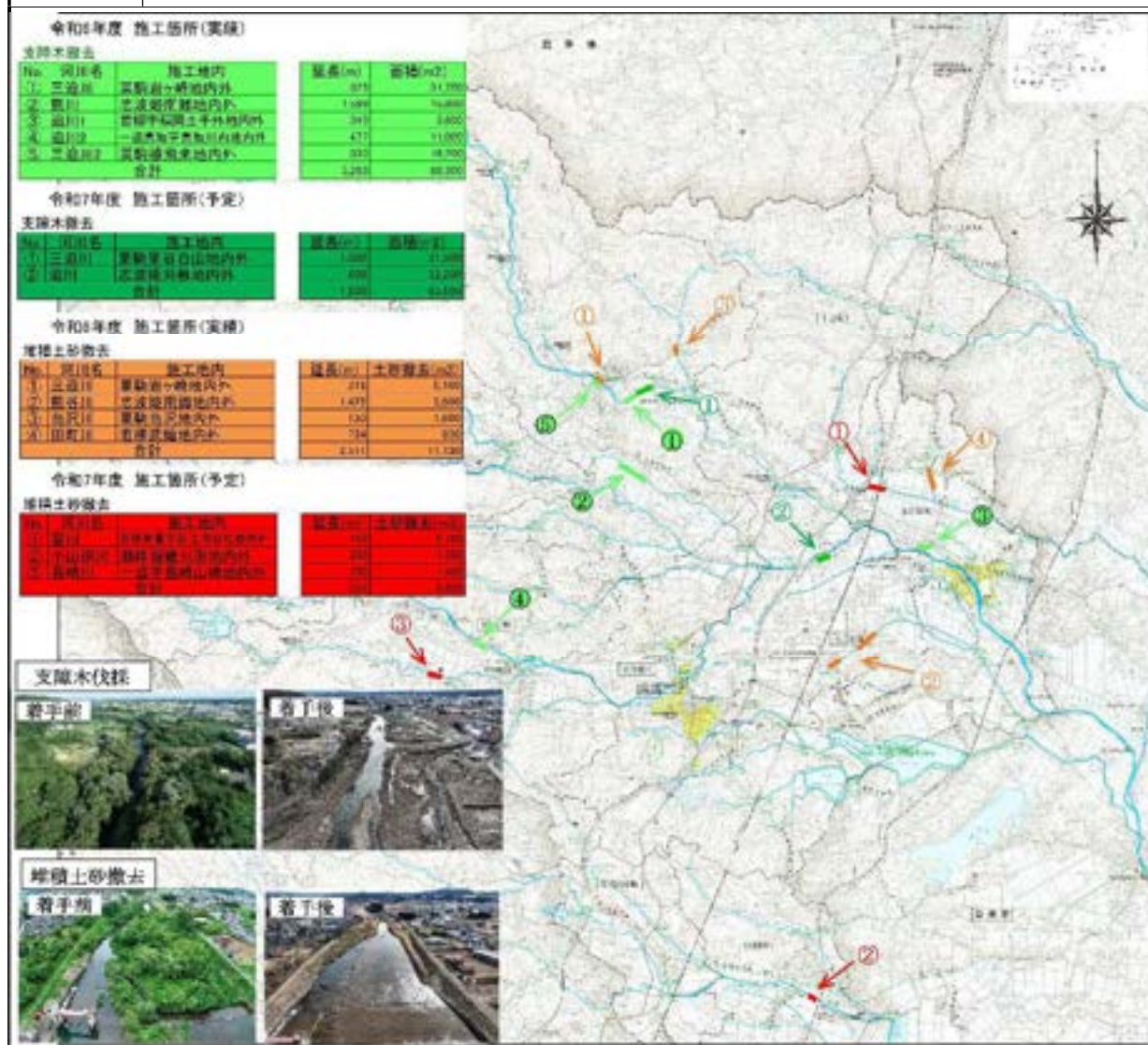
県単舗装補修事業

事業名	県単舗装補修事業	
事業概要	交通量の増加や舗装の経年劣化などにより損傷した路線について、舗装マネジメント計画に基づき、交通量区分や劣化状況に応じ、打ち換え、切削オーバーレイ、クラック注入等、適切な補修を行い、現状の舗装の管理水準を確保するもの。	
事業内容	【全体計画】 1 事業箇所 栗原市若柳有賀地内外 2 全体事業費 3 施工延長 4 事業期間 5 進捗率 6 事業概要 舗装補修 切削オーバーレイ 舗装打換工	【令和7年度事業概要】 1 事業費 C=245 百万円 (うち繰越 0 百万円) 2 施工延長 L=4,000m 3 事業概要 舗装補修 A=26,700m ² 切削オーバーレイ 舗装打換工
事業効果	舗装補修により、安全で快適な通行が確保される。	



河川内の支障木伐採・堆積土砂撤去事業【国土強靱化外】

事業名	防災・安全交付金事業（河川事業）、県単河川管理費	
事業概要	河川内に繁茂している支障木や堆積土砂は、河川の流下能力低下に繋がり、増水時には堤防の越水・決壊などの災害を発生させる要因となることが懸念される。 このため、沿川の市街地や集落等が洪水で甚大な被害に遭うことがないように、河道状況や沿川状況等を考慮して優先順を定め支障木伐採・堆積土砂撤去を実施し、流下能力の確保を図る。	
事業内容	【令和6年度実施】 【支障木】 1 事業費 C=100 百万円 2 施工延長 施工延長 L=3,283.0m 3 事業概要 伐木除根工 A=80,300m² 【堆積土砂】 1 事業費 C=138 百万円 2 施工延長 施工延長 L=2,511.0m 3 事業概要 掘削工 V=11,130m³	【令和7年度概要】 【支障木】 1 事業費 C=79 百万円 2 施工延長 施工延長 L=1,600.0m 3 事業概要 伐木除根工 A=63,500m² 【堆積土砂】 1 事業費 C=115 百万円 2 施工延長 施工延長 L=858.0m 3 事業概要 掘削工 V=8,800m³
事業効果	支障木伐採、堆積土砂撤去による流下能力の向上と良好な河川環境の保全	



～自然豊かな風情を映す栗原の四季～

春の山里(出典:観光課)



秋



秋の平野(出典:観光課)

夏



田園の水車(出典:観光課)

冬



伊豆沼と渡り鳥(出典:観光課)

宮城県北部土木事務所栗原地域事務所

〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木5-1 栗原合同庁舎3階

TEL : 0228-22-2167 / FAX : 0228-22-9049

URL : <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khdbk/>



明日につなぐ×ミヤギの未来
宮城県土木部